

新中間処理施設整備地質調査結果について

【目的】

新中間処理施設建設地において地盤調査を行い、地質構成及び地下水位状況等を把握し、今後の施設設計及び施工に必要な地質資料を得ることを目的とする。

【調査内容】

- ・ボーリング調査（地表から深さ15mまで地質を調べるため）
- ・標準貫入試験（地盤支持力を調べるため）
- ・土質試験（現場発生土の利用等、対象地盤の物理特性を把握するため）

【調査結果】

・地質構成

建設地の地質は、深度9m程度まで粗粒土を主体とする十勝川の氾濫原堆積物が分布しており、表層部は軟弱な砂層が敷地全体に広く分布している。また、旧河道箇所は、十勝川の氾濫原堆積物とは異なる細粒土が局部的に見られ、この流路に沿って分布するものと考えられる。なお、深度9m程度以深については、密実な砂と固結シルトの互層からなる洪山層が確認され、氾濫原堆積物の基盤を構成している。

地下水位は深度2.45～3.50m（水位41.93～42.13m）で確認された。

・地盤支持力

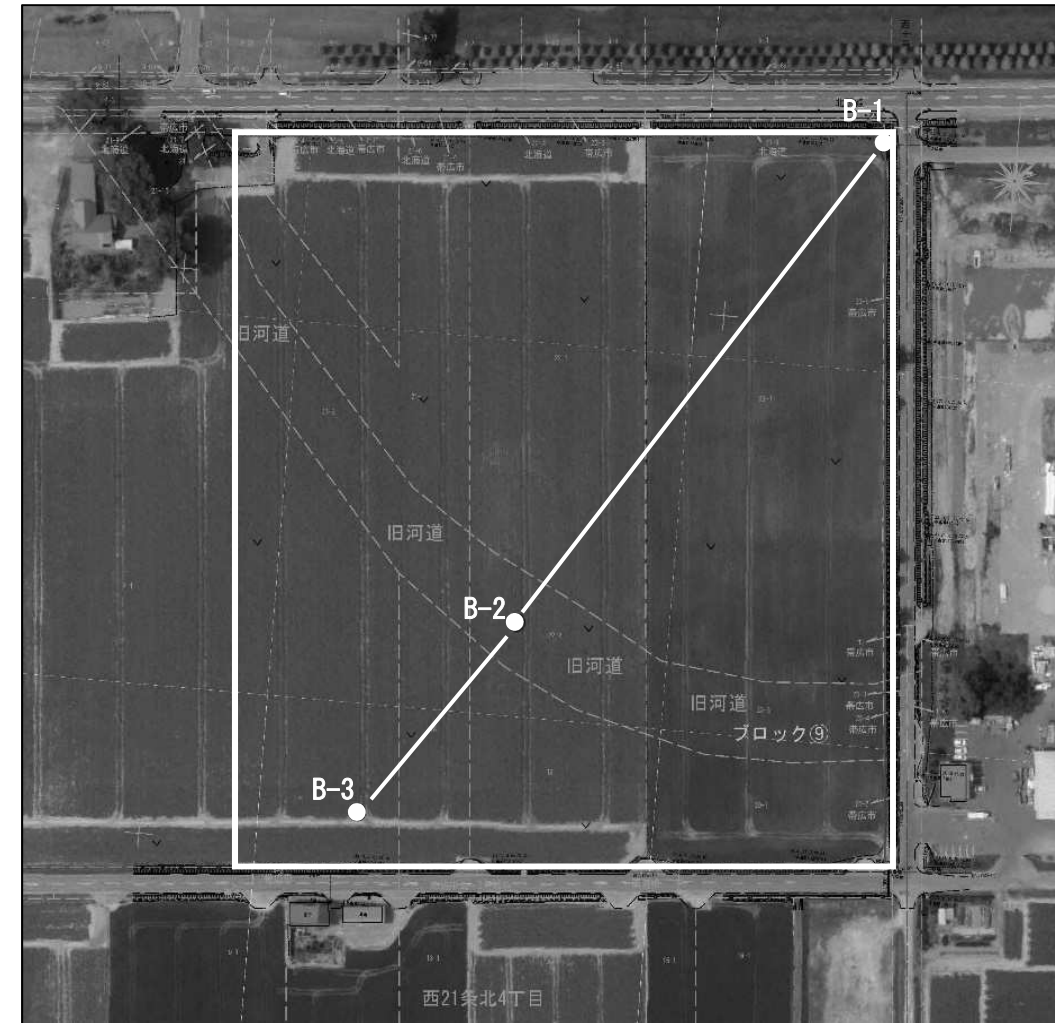
洪山層は、プラント等の大規模な構造物の支持層条件を満たしている。

・土質

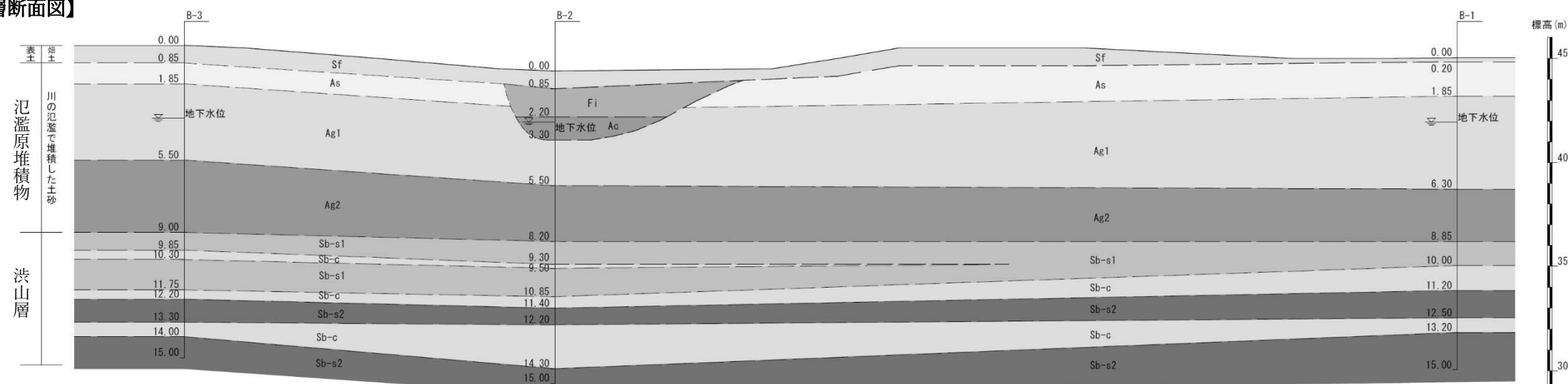
掘削により発生する土砂は、盛土や敷地造成で利用可能である。

【調査箇所】

敷地全体の地層構成を把握するため、旧河道部分を含めた対角線上の3か所を選定。



【地層断面図】



凡 例			
地層名	記号	構成土質	
表土	Sf	耕作土、シルト、礫混じりシルト、砂質シルト	
埋土	Fi	シルト砂質	
氾濫原堆積物	粘性土層	Ac	礫混じり砂質シルト
	砂層	As	砂、シルト砂質
	砂層1	Ag1	砂礫、礫混じり砂
	砂層2	Ag2	砂礫、礫混じり砂
洪山層	砂層1	Sb-s1	火山灰質砂
	粘性土層	Sb-c	固結シルト
	砂層2	Sb-s2	火山灰質砂、軽石混じり砂